

南伊豆の地震歴

著者	檀原 毅
雑誌名	静岡地学
巻	27
ページ	35-35
発行年	1974-06-02
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025755

南伊豆の地震歴

檀原 毅*

今度の地震の震源は、北緯 34.5° 、東経 138.8° 、深さ 20 km と暫定的な値が気象庁から発表されている。石廊崎南方約 12 km の海域である。この場所に限らず、南伊豆に震央をもつ被害地震の記録は従来なかった。もちろん、地震を震央と関係なく広義に解釈すれば、嘉永6年(1853)の小田原地震のように、南伊豆に被害を与えた地震はかなりある。

地震の記録が整備され始めたのは、徳川幕府が全国を統一した1600年ごろからである。それ以前もそれ以後も地震記録は南伊豆で皆無である。地域を少し広げると、表に示す記録があるが、いずれも大島、新島、神津島等付近の地震で、これらは火山性の性質が高い。

関東大地震(1923)では、伊豆半島中南部は地殻変動がきわめて小さく、最近も顕著な地殻変動は認められなかった。また、プレート・テクトニクス的には、南海トラフと相模トラフが北伊豆に向って湾曲する変動が期待できる帯域に抱かれたフィリッピン海プレートの中央にあるために、少なくともプレート運動の1次効果としての地震力は考えにくい。一般的に言って、南伊豆では相模湾や遠州灘に震央をもつて大地震による山地崩壊や津波の心配はあったが、今回のような地震は予想できなかった。

伊豆東南海域の過去の地震

西 暦	震 源		マグニチュード	位 置
	北 緯	東 経		
1890	34.3°	139.3°	5.7	新島南方
1900	34.0°	139.5°	6.3	三宅島
1905	34.8°	139.2°	6.5	大島西方
1936	34.5°	139.2°	6.3	新島北方
1957	34.3°	139.4°	6.3	新島東方
1962	34.1°	139.5°	5.9	三宅島
1967	34.2°	139.1°	5.3	神津島

* 静岡大学教養部

(34頁よりつづく)

溶岩は、風化で著しい玉ねぎ状割れ目が生じていた表面部分で崩壊した。

文 献

久野 久(1968)水中自破碎溶岩、火山13, 123-130

角 清愛(1958)神子元島図幅地質説明書、地質調査所

角 清愛・前田憲二郎(1974)伊豆半島南端部で発見されたアルカリ橄欖石玄武岩、地質雑80, 137-140